

専門領域別企画 | 専門領域別：スポーツ人類学

📅 2025年8月27日(水) 10:45 ~ 11:45 📍 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[1a1104-04] スポーツ人類学／キーノートレクチャー／能登復興に関するスポーツ人類的考察（能登駅伝-地域振興-震災復興）

[12人-KL-1]

能登復興に関するスポーツ人類的考察（能登駅伝-地域振興-震災復興）

*大森 重宜¹ (1. 金沢星稜大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：スポーツ人類学

⌚ 2025年8月27日(水) 10:45 ~ 11:45 皿 3201教室(教育研究棟 3街区 2階 3201)

[1a1104-04] スポーツ人類学／キーノートレクチャー／能登復興に関するスポーツ人類学的考察（能登駅伝-地域振興-震災復興）**[12人-KL-1] 能登復興に関するスポーツ人類学的考察（能登駅伝-地域振興-震災復興）***大森 重宜¹ (1. 金沢星稜大学)

< 演者略歴 >

金沢星稜大学人間科学部教授，84口サンゼルス五輪陸上競技400mH 1600mR日本代表，シドニー・アテネ五輪代表コーチ，北信越学生陸上競技連盟会長，能登半島七尾市大地主神社宮司，スポーツ科学博士

石川県は令和6年能登半島地震による被災からの復旧・復興の象徴として「全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会（以下大学能登駅伝）：1968年～1977年」の再開を計画している。その目的は、地震からの復興に向け、単に被災前の姿に復元することにとどまらず、能登地域の著しい少子高齢化、過疎化、限界集落化等ももとの課題を踏まえ、未来志向に立って以前よりも良い状態を目指す「創造的復興」にある。本研究報告では大学能登駅伝の実施が復旧・復興にスポーツ、スポーツツーリズムが及ぼす効果、さらに大学スポーツ協会（UNIVAS）の理念を基とする新しい大学スポーツの在り方について大学能登駅伝を通してその在り方を検討する。

歴史的に疫病の流行、震災後に「見る一見られる」の関係から発展した散楽、猿楽、山・鉾・屋台行事、特に祭りの宝庫と称される能登半島の祭礼、神賑わいと同じく大学能登駅伝を能登半島の風流（ふりゅう）として捉え、日本遺産「キリコ祭り」の巨大キリコ舁き、UNESCO無形文化遺産日本最大の山鉾の曳行「青柏祭の曳山行事」のコロナ禍、震災による中止、廃止、またその再開が復興に及ぼす影響、機能をスポーツ人類学的視座から比較考察する。